S O T O 禅 インターナショナル

発行日　2013年12月20日　　発行人　細川正善
編集責任者　廣澤道秀　　編集担当　佐藤慧真
発行所　SOTO禅インターナショナル事務局　〒233-0012 神奈川県横浜市港南区上永谷5-1-3 貞昌院内
Tel. 045-843-8852　Fax. 045-843-8864　　URL: http://www.soto-zen.net/
郵便振替　00100-6-611195　SOTO禅インターナショナル

Vol.54

2013年度両大本山ワークショップ特集号

両大本山ワークショップ講演会　9月5日 永平寺（上）／9月18日 總持寺（下）

巻　頭

国際布教の今後に向け、一層の認識と協力姿勢の結集を

大本山總持寺監院　乙川暎元（おとがわえいげん）

この度21年振りにハワイを訪問する機会に恵まれました。

大本山總持寺貫首江川紫雲臺猊下御親修によるハワイ国際布教110周年、両大本山ハワイ別院正法寺創立100周年記念行事に随行させていただきました。

2日間に亘る慶讃法要であり、両日とも日本そして日系社会を主体とした行事でした。

初日は正法寺においてハワイ檀信徒の総回向（導師・ハワイ国際布教総監　駒形老師）、国際布教物故者諷経（導師・大本山永平寺副監院　丸子老師）と、紫雲臺猊下御親修による、別院境内に新たに建立された放光地蔵尊の点眼法会が相勤まりました。

2日目は会場をシェラトン・ワイキキに移し、ハワイ国際布教110周年記念法要（導師・宗務総長代理として教化部長　小島老師）と同じく御親修による両大本山ハワイ別院正法寺創立100周年慶讃法要が執り行われました。猊下におかれましては、初中後を通じて親しくご参会の方々との交流を深められました。

さて、かねてより「ハワイにおいて展開されている日系仏教が直面している諸問題は、日本の仏教のありようについて極めて示唆的予見的な要素を含む」ということが言われております。

仏教的「家」の宗教から、人々が求め実践する「個」の宗教へ社会の要請は際立って移行しているという見方です。寺檀関係は疲弊しているが、禅の教え自体は国際的にも非常に評価され求められているという現実です。

そのような課題を内包しつつも、現地に応じた形で日々布教活動に尽力しておられる国際布教師その他関係の方々に、深く敬意を表します。

この度の訪布によって、宗門の教えの更なる定着化と発展性を実感できたことは大きな慶びでした。

ハワイにお伺いする約2ヵ月前に、南アメリカ国際布教110周年記念行事出席のちなみに同諸国を訪れましたが、同地においても全く同様の感想を抱きました。

国際布教の今後に向けて、われわれ宗門人各自が一層の認識と協力姿勢を結集させなければならないことを両地において改めて見つめ直したことでした。

特集　両大本山ワークショップ講演録

9月5日 大本山永平寺　9月18日 大本山總持寺

スティーブ・ジョブズの禅受用と海外の禅研究

駒澤大学仏教学部教授　石井清純（いしい せいじゅん）

9月5日　大本山永平寺　監院寮拝問

【講師略歴】
1958年生まれ。
駒澤大学仏教学部卒、駒澤大学前学長・仏教学部教授。
2000年にはスタンフォード大学客員研究員を務めた。
専門は禅思想研究。
特に道元禅師の著述の総合的な解釈・分析を試みている。
また、海外の禅研究者との交流も積極的に行っている。

ＳＺＩワークショップでお話をさせていただく機会をいただき、誠にありがとうございます。

私は、西暦2000年にスタンフォード大学において在外研究を行い、北米の禅についても若干の見聞をしてまいりました。ただ、現地の禅者達の実践活動については、私よりもずっとＳＺＩの皆さまが多くの体験をされておりますので、本日はまず、北米禅の受用の様相について、スティーブ・ジョブズを例に解説し、その後あちらの大学における禅研究と教育をご紹介しながら、最終的に北米禅の今後の展望について、日本との比較によって私見を述べるという形でお話しを進めさせていただきたいと思います。

0．鈴木俊隆師と乙川弘文師

ジョブズの禅を語る前に、まず、アメリカに禅を広め、ジョブズを禅へと導いた方々をご紹介いたしましょう。それは、鈴木俊隆師と乙川弘文師のお二人です。

（1）鈴木俊隆師と禅センター

日本の禅は、1893年の万国宗教者会議で欧米に紹介されました。その後、1950年代に鈴木大拙によって大きなブームとなります。それを受け、1960年代に、禅に興味を持った人たちの実践面での受け皿として、「禅センター」という日本にはない施設を創設されたのが鈴木俊隆師でした。

すでにご存じかと思いますが、俊隆師は大本山永平寺顧問鈴木包一老師のお師匠さんに当たり、両大本山における安居修行を経て、1959年、55歳でアメリカに渡られました。布教に当たり、鈴木大拙の存在に気を遣って、自らは「Little Suzuki」と称されていたとのことです。

俊隆師は、桑港寺住職として渡米されたのですが、そこで布教に携わるうちに、現地の人々のための参禅道場の必要性を感じ、1961年、サンフランシスコ市内にBeginner's Mind Temple（発心寺）を建立されました。そこで現地の参禅者に、純粋に坐禅に打ち込む「只管打坐」の禅を説かれたのです。

これが、いわゆる「禅センター」と呼ばれるものです。日本の寺院とはかなり様相を異にし、僧侶だけでなく、仕事を持ちながらそこに住んで参禅を続ける方や、外から通ってくる方などの共同の道場となっています。

続いて、1967年にタサハラにも新たな禅センターを建立されました。この時に修行僧の指導のために大本山永平寺から招かれたのが、のちにジョブズの師となる乙川弘文師でした。

禅センター建設とともに、俊隆師は1969年に*Zen Mind, Beginner's Mind*を出版されました。この書は日本でも3回に渡って翻訳・出版されていますが、45ヵ国で出版され、世界的に大きな影響力を与えました。かの有名な大拙居士の*Zen and Japanese Culture*（禅と日本文化）が40ヵ国での出版だったと言えば、その広まりの大きさはご理解いただけると思います。

内容的には、いま、学部のゼミで読み進めておりますが、まさに駒澤大学で講義しているような、極めて基本に忠実な内容となっています。当時、薬物による瞑想体験などと同様に扱われていた禅を、純粋な坐禅修行として明確に示しているのです。私としては、この書が禅の実践に関する標準になってくれたことは、世界の禅者にとって本当に幸せなことであったと思います。

「禅」という漢字の読みは、日本では「ぜん」ですが、中国語では「chán」、韓国語では「seon」となります。その

9月5日　大本山永平寺にて　石井清純先生

中で、日本語読みの「ZEN」が欧米に最も定着しているのは、大拙居士と俊隆師という、「二人の鈴木」の著述に寄るところが大きいと私は推測しています。

これほどの業績を残しながら、実は「鈴木俊隆」という名は日本ではあまり知られていません。しかし、北米では違っています。例えば、スタンフォード大学の仏教研究所に俊隆師の写真が飾られているのです。北米における禅の定着に高い功績を挙げられた方として、もっと日本でも顕彰されてしかるべきだと考えています。

（2）ジョブズと乙川弘文師

鈴木俊隆師に指導者として招かれた乙川弘文師は、1967年に渡米されています。ジョブズとの出会いは、1971年頃のことだったようです。

弘文師とジョブズとの対話については、あまり明らかになっておりません。人となりにつきましては、大本山總持寺監院の乙川暎元老師が大変詳細にご存じで、この講演に先立って資料のご教示などもいただきました。ここでは、ジョブズの伝記に残されている、次の言葉だけご紹介しておくことにします。

事業の世界に身を置きながらスピリチュアルな（自己の純粋精神を挙揚する）世界と繋がりを保つことは可能だから、出家はやめたほうがよい。（『スティーブ・ジョブズⅠ』講談社、2011 p.96）

この言葉は、ジョブズが日本での出家修行を希望したときの言葉とされています。このように諭された真意を私どもは計り知ることはできませんが、ジョブズと正面から向き合ってきた弘文師から発せられたこの言葉によって、ジョブズはIT産業に身を置き、誰も成しえなかった大きな功績を遺すことになります。ある意味では、弘文師のこの言葉がなければ、その後のアップルはなかったといえるかもしれません。

（3）禅の基本思想

では続いて、ジョブズの学んだ禅の基本思想について再確認してみたいと思います。それはよく知られる通り、徹底的な自己肯定、経典や文字による表現の否定、以心伝心、そして日常生活全般を「仏行」と見ること等があげられます。更に曹洞禅の特色として挙げられるのが、修行と悟りを一つと考え、その上で「只管打坐」を謳うこと、そして独りよがりとならないために集団で修行することを強調することなどとなるでしょう。

私はこれらの特徴を、大学の講義などではかみ砕いて「禅の悟りとは、家具の揃った部屋の灯りを付けること」と表現しています。つまり、完成された自己とは、すでに人が暮らすのに十分な家具の揃った部屋のようなもの、ただし灯りがついていなければ真っ暗で使えない、そこに「気付き」という灯りを点けてあげれば、すぐさま部屋（仏）として機能するということです。

では曹洞禅の特徴は、と申しますと、その部屋の灯りが、回し続けなければ消えてしまうダイナモライトだったと考えると解りやすいと思います。つまり、修証一等ゆえ、灯り（証）を維持するためには、休み無くダイナモを回す（修）必要があるということになります。この「回す努力」は坐禅の一行専修に集約されつつ、叢林修行の重視へと帰着してゆく、それがいま、皆さんの実践している僧堂修行の意義ということになるのです。

1．ジョブズの生涯を「禅的」に見る
―ザ・プロファイラーより―

では、スティーブ・ジョブズは、弘文師から学んだ禅をどのように受け入れ、活かしていったのでしょうか。この点について、昨年11月にNHK BSプレミアムの「ザ・プロファイラー」という番組が特集を組みました。私も企画に携わらせていただきましたので、その構成を追いながらお話ししてゆくことにいたします。

（1）なにもない部屋

まず、有名なジョブズの部屋の写真を見てみたいと思います。これは、Apple IIで大成功を収めたときのものなのですが、家具などはほとんどなく、中央の床にカップを持ったジョブズが座っている。シンプルな部屋で自分だけにスポットが当たるさまは、まさしく禅の心象風景のように見えます。また、その部屋に東洋的なものが一切置かれていないのも特徴的で、ここから彼が「禅」を自らの精神性の拠り所として取り入れていた可能性が見いだせるのです。

（2）シンプルさの追求

次に、Apple IIのポスターをご覧ください。真っ白な背景の中央に赤い林檎だけが置かれています。そして、コンピュータのポスターなのに、写真も説明も一切掲載

されていません。何となく、禅の一円相を彷彿とさせるものがあります。

さらに興味深いのはそのコピーです。

Simplicity is the ultimate sophistication
（単純であることは究極の洗練である）

「単純であること」に大きな意味を見出しているというのは、まさに「只管打坐」に通ずるものといえます。

ジョブズはまた、「**Journey is the reward.（旅路そのものが報酬である）**」という言葉も遺しています。これによって、ジョブズが業績だけを求める成果主義には立っていなかったことが分かります。同様な発言に、「**ベストを尽くして失敗したら、ベストを尽くしたってことさ。**」というものがあります。その時その時に行う努力、特に単純化された（専一なる）「一行」の価値を最大限に評価していたことが、これらの言葉から理解できるといえるでしょう。

（3）NeXTの失敗

しかし、彼も順風満帆だったわけではなく、アップル社を逐われ、新たにNeXTを立ち上げることになります。その時に開発した製品は、先端技術の粋を集めたものでした。しかし、なぜかそれはまったく売れず、大失敗となります。

じつはこの時、ジョブズは初めて「ライバル」の存在を意識したというのです。それはもちろん「アップル社」に対するものでした。それが彼を「独りよがり」の製品開発へと駆り立てた、それゆえに、誰も付いてこられなかったと考えられます。その時のポスターは、Apple IIのものとは似ても似つかない「説明文」に埋め尽くされたものでした。まさにこれが、ジョブズが自らを見失った一つの証左だったように思えます。

ジョブズの言葉に「ライバルは居ない」というものがあります。これは、マイクロソフト社に対する意識を尋ねられた際の答えです。

これを単純に禅語に当てはめれば、『臨済録』にある「随処に主となれば、立処みな真なり」が該当するように思えますが、これは、周囲の事象すべてを自分に巻き込んで自分を打ち立てるという、極めて臨済的な考え方ですから、このNeXTでの失敗を教訓とした、この後のジョブズの姿勢とは一線を画するものといえます。むしろここで彼は、「ライバルを意識して振り回されるべきではない」ことを学んだといえるのではないでしょうか。

（4）ふたたびAppleへ

ジョブズは、ふたたびアップル社に復帰します。その後の製品開発の姿勢を見ると、NeXT社における失敗を教訓に、ジョブズに「受け入れる側」に立つ意識が醸成されたように思えてなりません。

9月5日　大本山永平寺

それが、復帰してからのコンピュータの機種の大幅な削減や、iMacや、その後のiPodのデザインに象徴的に示されているのではないでしょうか。機種だけでなく、極力ボタンの数を減らし、デザインも円形に近いものとなっています。まさしく使い易さを意識し、「Simplify（単純化）」へ向かったものということができるのではないでしょうか。

これを『正法眼蔵』の言葉に当てはめれば、「他己」の意識の目覚めということになるでしょう。つまり、自己を、「他者の中のおのれ」から見るという考え方です。ユーザーに対する一方通行の利他ではなく、更にそこに自分自身の身を置いて考えるというものです。

（5）感謝の気持ち

このようなジョブズの意識は、次のような感謝の言葉に表現されています。

クリエイティブな人というのは、先人達の残してきたものに感謝しているものだ。それに何かを付け加えたい、そう思って僕は歩いてきた。

ここに示されているのは、正しく禅の伝燈とその発展的継承の意識に他ならないように思えてなりません。洞門では、「嫡嫡相承」を極めて重視します。釈尊の正伝の仏法を伝えた祖師方の教えをしかと受け継ぐこと、しかしその継承の中にも、それをそのまま受け継ぐのではなく、自らの面目の中において、発展継承すべきことも要求されます。それが、「師の徳を越えなば、その一半を減ず」という教えといえるのですが、ジョブズのこの言葉はそれをそのまま彼の生き様の中に表現したものといえるのではないでしょうか。

（6）禅的な発想

その他にも、ジョブズは多くの禅的な発想を予想させ

る言葉を遺しています。

①「仏教には「初心」という言葉がある。初心を持つことは素晴らしいことだ。」

この言葉は、先ほど触れた鈴木俊隆師の *Zen Mind Beginner's Mind* の基本姿勢ともいえます。もちろん、その根底には伝統的な曹洞宗の教えが存在しています。たとえば、『弁道話』の「初心の弁道すなわち本証の全体なり」などが挙げられます。

②「もし今日が人生最後の日だとしたら、今日やる予定のことを私は本当にやりたいだろうか。」

これは、いまこの瞬間を、全時空を集約した真理として把握するという、「現成公案」の考え方や、また、瑩山禅師の「常切」の教えそのものといえます。晩年、病を宣告されたジョブズには、一瞬一瞬が、本当に「切迫」したものとして捉えられていたのでしょう。

③「Stay Hungry, Stay foolish（ハングリーであれ、愚直であれ）」

ジョブズの言葉を、以上のような視点から解釈してくると、このスタンフォード大学の卒業式におけるスピーチの有名な一節も、貪欲に前を見据えるという意味ではなく、先ほど喩として用いた「ダイナモを回し続ける」こと、つまり、いまの自分を表現し続けるための精神的背景として受け取るべきものということになるでしょう。これはまさしく、『正法眼蔵』「現成公案」巻の「法もし身心に充足すれば、ひとかたはたらずとおぼゆるなり」に繋がる考え方ということになります。

（7）ジョブズの立場

さて、このようにジョブズの生涯とその発言とを合わせ見てきたところで、ジョブズの禅受用の立場についてまとめてみることにします。

ジョブズは、幼い頃より神への信仰心は薄かったといわれています。また同時に「自分は完成されたシステムである」と、自己の尊厳性と可能性を高く評価していました。ここに、禅の自己肯定の思考へと向かう要素があったものと考えられます。

9月5日　大本山永平寺

9月18日　大本山總持寺
国際布教師および国際布教関係者物故者法要

ただし、若い頃のジョブズはインドでの瞑想体験や薬物による神秘体験も実践しており、その点では、1960年代のヒッピー世代による折中主義的依用の範疇を超えていなかったものと考えられます。

それが、鈴木俊隆師、乙川弘文師の坐禅中心の教えへと帰着していくことになります。そして、その「只管打坐」を個人的な生き方だけでなく、機種の大幅な整理や単純化など、会社の運営においても、明確な方向性を見出すための指針としていったように思われるのです。

これが、ジョブズ前半生の禅受用の姿勢ということになるかと思われますが、NeXTを経て、ふたたびアップル社へ復帰した彼、そして病を宣告された彼には、最後に紹介した言葉に見えるように、ユーザーを見据えた製品開発、感謝の気持ちと「いま」を生きる意識が芽生えたように見えます。

まさしく、過去への感謝と、そこからの発展を「他己」の意識の下に行うという、曹洞禅の本質的な実践へと進んでいった、それがジョブズの禅受用だったということができるのではないでしょうか。

2．北米の仏教受容（省略）

3．禅の展開への私見 ―日本と北米―

それでは、最後に、いままで見てきた北米の禅の展開について、日本における禅の歴史と比較しながら私見を述べて結びとしたいと思います。

（1）禅の展開に関する日米比較私論

日本の禅の歴史と北米の状況を比較した一覧表（図1）にしてみました。

日本の禅は、鎌倉時代に始まります。まず、24流とい

図１　• 拙稿「正伝の仏法（道元禅）と中国南宋代の禅」（『法眼（Dharma Eye)』Vol.8 2001.4）
• 鎌倉時代以降に日本に禅が伝来し定着していく課程と北アメリカの禅の現状を比較。

時代	日本の展開史	北米の現状
鎌倉	伝来(24流)	日本人僧それぞれの展開
鎌倉／室町	五山・林下	臨済・曹洞の混在
室町	密参禅	公案禅の導入
	輪番住持制	禅センター・複数代表制
	叢林修行・各地の信仰との融合	個人的受用・Soto Zen Community
江戸	本末・寺請制度	×
	明朝禅の流入	−
	復古運動・集団修行の復活	−
明治	神仏分離	×

われるように、多くの僧が中国南宋から禅を伝えました。その後室町時代にかけて、五山と林下という二つの方向で展開します。ただしそこでは曹洞・臨済といった宗派意識は希薄でした。

北米に目を向けると、釋宗演によって禅が紹介されてから、臨済・曹洞両派の禅者が複数渡米し、それぞれに禅を広めるという日本とよく似た状況に始まっているといえます。そしてそれが、前角師に代表されるように、公案禅を導入しながら、臨済・曹洞の区別無く、「ZEN」として受け入れられてきました。これも室町時代の日本と類似しています。

その中にあって、鈴木俊隆師が純粋な曹洞禅を挙揚されたのは、極めて重要であるということになるでしょう。

日本に目を戻せば、室町時代に永平寺・總持寺の僧侶が日本全国に展開します。厳しい叢林修行による高い境涯を獲得し、それを維持しながら、各地の信仰と融合しながら、人々の心に定着していきました。

北米では、禅センターという現地の状況に合わせた独自の施設の創設と、Soto Zen Communityの発足がこれにあたるでしょう。

更に教えの維持存続のために、日本では峨山禅師が確立した輪番住持制が大きな役割を果たします。これは、派のご本山を弟子一人が護持するのではなく、複数の寺院が持ち回りで守るという制度で、その後の曹洞宗の維持展開に極めて大きな働きをしました。実は、臨済宗でも、中世に妙心寺がこれを取り入れて展開しています。

9月18日　大本山總持寺

これに類する制度を北米に探せば、サンフランシスコ禅センターの複数住持制が挙げられるでしょう。

このように、法の護持と安定的な展開に向け、日米それぞれに一点集中を避ける制度が作り上げられてきたのです。

以上のように見ると、北米の禅は日本の禅の歴史に当てて、江戸時代直前の位置にあるように思われます。

その後、日本では江戸時代に入って、幕府主導で本末制度と寺請制度が確立し、これによって各宗派縦割りの組織が確立するのですが、これはもちろん北米には存在しません。明治政府による神仏分離もあり得ませんので、ある意味これら幕府や政府の政策の影響の無いことが、日本と北米禅との最も大きな相違点といえるかもしれません。

その他の大きな影響としては、17世紀半ばの、隠元による黄檗禅の伝来が挙げられます。詳細は省略いたしますが、禅宗各派は、一度はこれを受け入れたものの、それを契機に、むしろ自らの拠り所を再確認する方向へと向かったのです。曹洞宗では、宗統復古と古規復古、臨済宗では正法復興運動と呼ばれるものがそれに当たります。

北米禅の現状に鑑みますと、今後は、この自らの拠り所の確認作業の段階にあるといえます。その時に、日本側がどのように働きかけるのかが大きな課題となってくるのではないでしょうか。

もちろん、それは日本の黄檗禅のような「新しいかたち」の提供ではあり得ず、むしろ、歩みの基盤としての伝統的な修行や行持の概念をしっかりと伝え示すことになってくると思われます。それが私たち、つまり日本の僧侶に課せられた責務であるように思えてならないのです。

（2）天平山禅堂プロジェクト

いま申し上げた観点からすれば、私は、現在、秋葉玄吾前北米国際布教総監の進められている「天平山禅堂プロジェクト」に注目しています。このプロジェクトは、カ

リフォルニアに出家者専用の禅堂を建設しようというものですが、まさにこの思考こそが、今後の北米と日本の曹洞禅を結びつけ、発展させるに当たり極めて重要であると考えています。

いままで見たとおり、北米禅の行く先を見定めるための情報提供をすることは大切です。それだけでなく、幕府や政府の影響のない中で展開した北米禅から、逆に日本の曹洞禅の未来を見据える情報が環流される、そのような形が、「禅の新たな地域における展開」の方向性として見えてくるのではないかと思われるのです。

もちろん、相容れない相違点は確実に存在するでしょう。しかし、それを意識しながらも同じ教えを伝え残すという共通の意識の元、日本側の私たちが働きかけ続けてゆく必要性を感じるのです。

いまここにおられる皆さんが、その情報環流と、それを有効に利用した将来的展開に積極的に関わっていただくことをお願いして、この講演を閉じたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。

両大本山ワークショップアンケート報告

アンケート回答数　37名

【アンケート項目】

（1）今日の講演会の感想（自由記述）

（2）国際布教に興味がありますか
　興味がある／興味はあまりない／まったく無い

（3）国際布教師になる方法を知っていますか
　知っている／知らない

（4）ＳＺＩの国際布教支援金制度を知っていますか？
　知っている／知らない

（5）国際布教に携わるのに困難と感じる理由があったら記入してください

（1）今日の講演会の感想
自由記述より抜粋、（　）内は安居年と出身地

●自分が思っていたよりずっと禅が世界に知られていることに驚いた。（25年　山梨県）

●あの有名なジョブズが禅に興味を持っていたとは驚いた。もっと世界中に禅を広めるためにこの事実を発信すべきだと感じた。また最低でも英語くらいは出来るようにならないといけないと思った。伝道部の公務に興味が出てきた。（25年　三重県）

●海外でも禅が広く知られ、英単語にまでなっていること、人気の高さに驚かされた。（25年　長崎県）

●禅宗が、曹洞宗のZENという形で浸透しているのが興味深かった。これまでの布教に携わった方々はすごいと思うし、曹洞禅の内容が海外の人には受け入れやすかったんだと思う。（25年　長崎県）

●数ある宗教の中で、海外の人が禅宗のどういったところに魅力を感じているのかを知ることで、私たちも禅宗を違う視点から見ることが出来るのではないかと思った。また国際布教をしていく中で、それぞれの国で様々な禅宗の形が出来てくると思うが、そこが難しいところであり、また面白いところでもあると感じた。（25年　京都府）

●世界的に有名なジョブズが禅に出合うことでどんな影響を受け、またビジネスにどう作用したか分かりやすく説明していただき、大変興味深かった。後半は学術的な説明が多かったので、もっとジョブズと禅について掘り下げてもらいたかった。（25年　鹿児島県）

●世界的な坐禅（ZEN）に対する関心の高まりの中で、ＳＺＩがそれに呼応すべく具体的かつ実践的な取り組みをされていることが大変良く分かった。また檀家制度に依拠しない海外では本来的な信仰の姿があるように思えた。（25年　神奈川県）

●ジョブズの話に期待していたが、ほとんど最初だけで残念だった。（25年　北海道）

●海外での仏教の広がりについて深く学べ、非常に有意義な時間を過ごせたと感じた。内容の説明が若干駆け足気味に思えた。ジョブズと禅の関係は書店で販売されている書籍で知っていたので別の話も聞きたかった。（25年　北海道）

●外国でこんなにも禅の信仰が多いことに驚かされた。自分は英語も得意なほうではないし、海外布教には関係がないと思っていたが、この講演を聞いて興味がわいた。道元禅師が開いた曹洞宗だが、私たち日本の修行僧でもまだ分からないことばかりであり、日本人の宗教離れが問題となって来ている中、海外の人たちの熱心な姿勢に感心させられ、また恥ずかしさも感じた。正伝の仏法を英語で誤解のないように伝えるのは難しいことだと思うが、日本だけにとらわれず、逆に海外を見ることで曹洞宗ももっと良きものになっていけると思うので、国際布教の大事さに気付かされた。もっと今回のような講義の場をふやしてもらいたい。（25年　三重県）

●正直なところ、国際布教に私はあまり関心はない。ただジョブズという世界の成功者が曹洞禅に大きく影響を受けていたのはとても興味深いことだった。特に注目すべきなのは、よくある外国人の日本文化好きの延

長として禅と接していたのではなく、完全に思考や精神面の世界で曹洞禅に関わりを持っていたということが挙げられる。また発言の節々にも現れていた彼の禅的世界観は世界も認める彼のデザイン性の根底をなしていたと言って過言ではない。こうしたことからも曹洞禅の国際布教は十分に見込みがあるものだといえる。僧侶としてではなく一般人として曹洞禅を体現していたジョブズだが、彼の生涯における成功の裏にはいくつもの挫折があった。そうした多くの挫折を通して悩み考え続けた結果、ようやく曹洞禅と深い関わりを持つようになったわけで、実際外国人が禅と接する機会の多くは日本文化の延長がまだ多いと思う。ただ異文化の中ではそうしたことが布教の糸口となりうるので、肯定的に捉えてよいと思う。(25年　愛知県)

●有能な人物であっても心を鍛え整えるということは重要な要素なんだと思った。曹洞宗は世界的に見ても魅力的な宗教だと思うので、海外には布教拡大の可能性が大いにあると思った。(25年　山形県)

●海外布教も重要なことではあるが、まず国内における仏教への理解と関心を民間に広めることも大事なのではと思った。(25年　静岡県)

●仏教は悟り体験ではなく、実践することを重視する宗教であるため、他国に布教することも比較的容易ではないかと感じた。言葉の壁も坐禅を中心とした布教なら、心配する必要がないからである。人口の約1パーセントが仏教に影響を受けているという事実からも布教を受けた人も馴染みやすい宗教ではないかと感じた。(25年　新潟県)

●ジョブズが出家を考えていたと聞いて、驚きました。石井先生がいろいろと資料提示してくださったが、その中でも米国の仏教徒の少なさに驚いた。また海外への布教の難しさや壁も初めて知ったのでとても勉強になった。(25年　宮崎県)

●海外で禅がどのように広まっているのかまた現状が知れて勉強になった。禅を広めるために何をするべきか、伝えやすくするにはどうすべきか、これからの安居生活を使ってしっかり考えていきたい。(25年　新潟県)

●日本人と外国人とでは禅に対するイメージに少しずれが生じているのではないかという風に感じた。言葉の壁を越えて布教していくには正確な禅の指導が必要であり、そのための基盤はとても重要なものであると感じた。(25年　北海道)

●マッキントッシュのシンプルなデザインであったり、単純な操作方法であったり、ジョブズがZENの思想に影響を受けていたことがとても興味深かった。仏教(禅)の思想は、平和的で協調性のある良い考え方だと思うので、日本だけでなく世界に目を向けることは大切だと感じた。(25年　大阪府)

●ジョブズと乙川老師の関係性が自分の思っていた以上に深く、もっといろいろな本や資料を読んで知識を増やし、国際布教にもっと興味を持ちたいと思った。(24年　長野県)

●自分にはまだグローバルな視野がないので、初めて知ることが大半だった。ジョブズがここまで禅というものを取り入れていたとは、驚きだった。この講義を聞けたのはＳＺＩの方々のおかげです、ありがとうございました。(22年　岩手県)

●ジョブズの生涯を禅的に見る部分がとても新鮮だった。アップル社のポスターや経営方針など禅と対比しての説明がとても印象的で興味深かった。また、北米で現在どのような状況に禅が置かれているのかや、今後の布教活動にはどの様なことが必要なのかを知ることが出来てとても勉強になった。今後の自分自身の布教活動を考える上でとても参考になった。(24年　佐賀県)

●ジョブズが曹洞禅を学んでいることは大学でも勉強したが、曹洞禅にのっとり数多くの実践をし実績を残したということで、禅の思想について学びたいと思った。外国の方には言語という障害もあると思うが、同じ人間なので一緒になって、同じ場で見せることによって周りの人も自分自身ももっと成長できるのではないか。無理に他の言語に訳そうとする必要はなく、やはり目で見て感じてもらうことが大切だと思う。海外の禅修行は和気藹々としている印象を受ける。ずっと緊張感があるわけでなく、緩んでもいない、皆で協力し合っているのを見て楽しそうだなと感じた。(25年　静岡県)

●海外で禅に影響を受けた人が多く、嬉しく思う。しかし海外ではオリジナリティーを加え新しくなっているが、大きく変化してしまっては意味がないと思う。坐禅だけが仏教ではないし基本的生活のうちで出来ているのではないか。私は『弓と禅』を読んだことがあるが、禅の拡大解釈が多くあると思う。その日本と海外のずれを直すことは大切であると思う。(25年　静岡県)

●米国ではキリスト教離れが続いているというが、教えの体制や内部の腐敗が大きな理由である。仏教が広がりを見せているというのも、仏教の「行」を重視して最終的に悟りという自己実現を図るところに、現代のストレス社会には魅力があるように感じる。(25年　滋賀県)

●ＳＺＩの存在を初めて知った。海外と仏教について勉強してみたいと思った。(25年　東京都)

●曹洞宗が海外にこんなに力を入れているとは思わなかった。海外に興味があるので海外の曹洞宗のお寺に行ってみたいと思った。海外の人が曹洞宗に興味を持っていることが嬉しかった。(25年　長野県)

●曹洞宗がここまで国際布教に取り組んでいるとは思わなかった。(25年　秋田県)

●これほどに海外に広める努力や工夫をしているのを知らなかった。ジョブズが日本の宗教に興味を持っていたことは日本人として嬉しいと思う。少しでも諸外国

の人に興味を持ってもらうために何が出来るかを考える機会になった。（25年　愛知県）

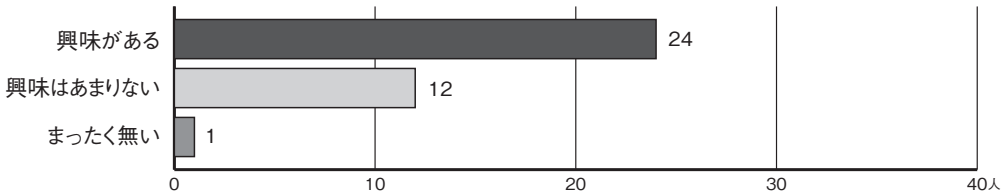
●海外の方々が禅に関心があるのが良く分かったが、日本人の信仰心をどのように伝え、また海外の方が禅ではなく仏に対してどのような信仰心を持っているのかが非常に気になった。（25年　奈良県）

●日本の僧侶が海外へ出て行くということは少ないと思う。だが海外の人が日本へ禅を知りたいと思って来ることは多い。そこに意識の差があるように思う。布教というのをしているのか、させてもらっているのか分からないように思った。（23年　愛知県）

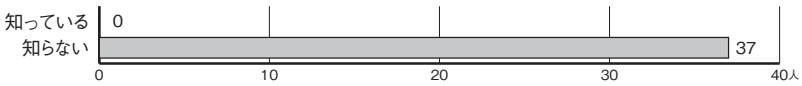
●世界で多くの人が曹洞宗の布教活動をしていることに驚きを感じた。海外でも坐禅をし、仏教に関心をもってもらえるというのはとても良いことだと思う。いつかは世界の人達にも坐禅の素晴らしさを教えたいと感じさせられた。（25年　北海道）

●国際布教において誤解は避けられない問題だ。一度受けた誤解を修正することは長い時間がかかると思うが、その誤解も仏教の新しい形となって現地に根付いているのだと思った。（25年　東京都）

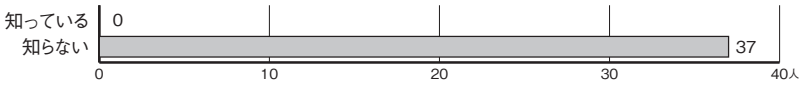
（2）国際布教に興味がありますか
興味がある／興味はあまりない／まったく無い



（3）国際布教師になる方法を知っていますか
知っている／知らない



（4）ＳＺＩの国際布教支援金制度を知っていますか？
知っている／知らない



（5）国際布教に携わるのに困難と感じる理由があったら記入してください（複数回答）

・言葉の違い（15人）
・文化の違いや環境の違い
・治安
・布教の困難さ
・外国の仏教や布教などへの知識不足
・敷居が高い
・禅への勉強不足
・目先の修行がまず大事
・家族を連れて行くのが不安
・師寮寺が心配

まとめ

今回のアンケートでは、（2）、（3）、（4）のような選択の質問を設けました。

（2）の「国際布教に興味がありますか」では、24人が興味があると答え、興味はあまりないかまったく無いと応えた13人を大きく上回っています。今年度は37名の回答数となり、両大本山全体としての統計と捉えるのは早計であるかもしれませんが、（1）講演会の感想にあるように、少なからずの修行僧が「ワークショップの内容に興味を持ち」、「海外に興味を持ち」、「国際布教に興味を持っている」ことが分かります（これは秋葉玄吾師を講師に迎えた昨年度にも見られた感想と一致した傾向です）。

しかしながら、（3）「国際布教師になる方法を知っていますか」と（4）「ＳＺＩの国際布教支援金制度を知っていますか？」では、全員が知らないと答えており、国際布教の具体性に対する認知度の低さが浮き彫りになりました。また、（5）「国際布教に携わるのに困難と感じる理由」については、言葉の問題や知識の不足などの教育面での不安や、文化の違いや治安などの実際面での不安が挙げられています。「敷居が高い」という言葉にも問題が潜んでいるように思われます。いずれにしろ、情報不足ということです。

今後のＳＺＩの活動方針については現在役員選考委員会で協議が行われており、国際布教師の育成への関わりについての方向性は定まってはおりません。しかし、「国際布教の状況と照らし合わせて、自身がこれから係わる国内布教や寺院運営について考えた修行僧も少なくなかった」という今回のアンケート結果をふまえ、協議を引き続き行っていきたいと思います。

（事務局記）

… 海外レポート① …

曹洞宗ハワイ国際布教110周年
両大本山ハワイ別院正法寺創立100周年に参加して

ＳＺＩ副会長　飯島尚之（元ハワイ別院国際布教師）

去る11月9日･10日、「曹洞宗ハワイ国際布教110周年･両大本山ハワイ別院正法寺創立100周年」の大法要と記念式典は、初めての海外ご巡錫となる大本山總持寺・江川辰三紫雲臺猊下を両大本山ハワイ別院正法寺創立100周年記念慶讃法要と放光地蔵点眼法要の大導師にお迎えし、ハワイ別院正法寺(9日)とシェラトン･ワイキキ(10日)にて2日間修行され無事円成いたしました。

日本からは、曹洞宗宗務総長代理として小島恭道教化部長老師（ハワイ国際布教110周年記念慶賛法要導師)、大本山永平寺御専使として丸子孝法副監院老師(ハワイ国際布教物故者諷経導師)、大本山總持寺乙川暎元監院老師、大本山總持寺が募集したツアー参加者一行、曹洞宗宗務庁課長会や宗務庁からの随喜を含め全国から約200名、さらに北アメリカ・南アメリカ・ヨーロッパの各国際布教総監老師とその一行､曹洞宗国際センター、ハワイ全島9ヵ寺からのメンバー（檀信徒）の総勢約600名がシェラトン・ワイキキに集う盛大かつ日本色の強い大法要と記念式典となりました。

ＳＺＩは、結成20周年の節目を迎えたツアーとして細川正善ＳＺＩ会長を団長に25名が参加いたしました。今回のツアーでは両大本山ハワイ別院正法寺はもとより、浄土宗ハワイ別院・本派本願寺ハワイ別院（西本願寺)・ハワイ出雲大社・マキキ聖城キリスト教会・パールハーバーにお参りし、今回のツアーで参拝した各宗派別院から現状をお伺いする4泊6日の研修旅行となりました。

記念法要と式典に関しては、宗報や跳龍等で詳細をご覧いただけますので、ＳＺＩは今回の記念行事をとおしてハワイ日系宗教団体の厳しい現状の一端をお伝えいたします。

今回の行事をとおしてハワイのお寺を取り巻く環境が激変していることを強く感じました。それはメンバーの高齢化と日系人の減少による「同族信仰の限界」であります。今回のお参りをさせて頂いた各宗派別院から聞く現状は、メンバーがこの20年でほぼ半分になり、お寺の存続に係わる大きな問題がより現実的になってきた事です。

まず日系人とは、両親から日本文化等の影響を強く受けた2世までであり、3世以降はアメリカ人であります。さらに4世・5世の若い方々はアメリカ本土の大学で学び就職、ハワイに戻るのは少数となっているようです。これらによりお寺の世代交代が円滑に進まないのも原因のようです。

またハワイの総人口に占める日系人の割合は、この100年で約45％から約20％近くまで減少しております。日系という「同族」によりスタートしたハワイのお寺は、その支持基盤をすでに失っております。これら人口問題は、我々の力が及ばない厳しい現実でもあります。

一方、海外のお寺で挑戦したいと志す宗侶が日本に少ないのも一因です。これからの若い宗侶に必要なものは、多くの人種・文化の中で生き抜く強さや、海外で孤独に耐えられる力をもてる事、これこそが語学力以上の国際人としての必要条件であると思っております。

ハワイのお寺は、常に大きな挑戦を受け、新しい経験を強いられております。アメリカでは、時代の流れの中で必要な者だけが残り、他は自然淘汰されていく厳しい運命が潜む社会でもあり、ハワイのお寺も常にその現実と闘いながら存続に向け挑戦しております。

言い換えると、アメリカ社会の一部であるハワイにおいてお寺が遭遇する数々の問題点を忌憚なく直視することは、日本のお寺に極めて重要な事と思われます。何故ならば、極めて示唆的かつ近未来的な要素を多分に含ん

紫雲臺猊下御垂示

ハワイ祭り太鼓

別院本堂 にて駒形国際布教総監とＳＺＩのツアー一行

でおり、日本のお寺にとってハワイのお寺は「アンテナ・ショップ」的要素を持つ寺院であると言って過言ではないからであります。

移民と共に、日本仏教も異国の地とは思えぬほどの発展を見せました。しかし、日本の真珠湾攻撃に始まる第二次世界大戦という悲劇も絡んで、移民社会は急激に変容し、世代交代の時に遭遇して、お寺の支持者と後継者の過半数を一挙に失いました。

100年を経過したハワイのお寺は、瓢箪の形にたとえるなら、丁度その“くびれ”の処に当たる時期にあるのではないかと思われます。この傾斜は一度いきつく処まで行って、そこから改めて日本仏教が真の“ハワイ仏教”として再生する日が来ることを、私は心より祈念いたします。

合掌

… 海外レポート② …

台湾・仏光山寺の祝典臨席レポート

～突然のお招きで二度訪問～

埼玉県圓通庵住職　大場満洋（おおばまんよう）

仏陀記念館オープニング
2011年12月26日　仏舎利安置式典

仏陀記念館落慶と仏牙舎利安置の式典

最初の渡台は震災の年12月23日からの、祝賀大法要参列の旅でした。台北は冬真っ只中ながらも、御本山の在る南端の高雄は真夏の如き日差し！ 蒼天に仰ぎ見る高さ50ｍの大仏像は金色に輝き、その威容に圧倒されるばかりでした。敷地100haに300億円を要した大施設と、盛大な祝賀行事や参列者の規模はただ圧巻の一語に尽きます。奈良の大仏様は18ｍ、鎌倉が13ｍと記憶していますので、その桁違いな巨大さを推し量っていただけるのではないでしょうか。

西蔵ラマ僧のコンクト・リンポチェが懐中に秘匿して来た仏舎利も、中国の弾圧下では守り切れぬと10年程前に託されたとのこと。

初日のオープニングには馬英九総統はじめ10万人以上の参列で、8日間の祝典期間中で約80万人が参拝した由。2日目の仏牙舎利安置の法要には、檀上中央の星雲大師の真横で参列させていただきました。思いもよらぬ厚遇に首を傾げつつも、400ｔの支援物資や200億円以

上の義捐金をいただいた日本人を代表して、という思いも込めて、慎んで敬虔な祈りを捧げてまいりました。

第５代新住職法灯継承と晋山式隨喜

今年3月11日は、石巻へ震災三回忌のお手伝いに伺う予定でした。その直前にまたも突然のご招待をいただき、急遽二度目の御本山訪問となりました。第5代目心保ご住職就任式に参列するためで、単的に感想を申せば感動の連続という言葉に尽きます。

旧暦の正月「春節」は一ヵ月続き、その最終日11日夕刻の到着となりました。まだ正月の飾り付けのままで米国のクリスマスの電飾と、ディズニーランドのエレクトリカルパレードが合体したような、山内の煌びやかな光の氾濫に只々仰天するばかりでした。青森のねぶたや花灯のような眩いイルミネーションが夜10時まで点灯し、初詣客は一ヵ月間で150万人に達したとのこと。人間仏教の拠点は光の聖地と彩られ、行き交う家族連れやカップルは皆笑顔に溢れ、感動の第一楽章という光景でした。

仏陀記念館の数倍の広さを有する境内に働く、夥しい人数の尼僧様方やボランティア職員の女性たちも皆、「和顔愛語」。頬笑みに満ちたオモテナシは、まさに法喜禅悦の百花繚乱たる情景を見るような心地でした。

翌朝12日は大雄宝殿で数百人の僧俗一体となった朝課の後、大ホール檀上特別席で晋山式に隨喜いたしました。ロス別院住職であった新命和尚を祝う米国団参一行や、4代目心培和尚ゆかりのタイや韓国の僧侶とシンガポール別院の団参一行など、国際色豊かな会場でした。認証式に引き続き新体制の内局と、各国別院の住職等の

2013年3月12日　晋山式
星雲大姉と新命の心保和尚

宣誓や就任式もあり、華やぎと活気溢れる和やかな祝典でした。

「十方世界に開かれたお寺であり、人々を受け入れ導くのが新住職の使命であること。そのため全山のチームワークが肝要であること」

星雲大師のお諭し通りの雰囲気で、道元禅師様の「柔和な心と優和な温容を以て人に接すべし」とのお言葉が重なります。僧俗男女一体の禅センターの修行風景も懐かしく思い出され、貴く心地良い空間という印象です。

台北道場などの朝晩7時からのお勤めには、毎回数百人が参加し、1日15日の歎仏では千人の会場がいっぱいとなりました。専用のテレビスタジオもあり、禅浄密の各宗3局で経典講議や法話を終日放送しています。財法二施の両輪が転ずる故の功徳無量、エンゲージドブディズムの手本を見るような感動を覚えました。

近々に視察研修のツアーを企画して再訪したいものと、心に願って帰路に付きました。

役員選考委員会（10月30日）の協議報告

○本委員会を役員選考委員会と名称変更。2014年は細川会長により、次の体制に合わせたシミュレーションの一年に。以後は世代交代やニーズに沿う形で会長を選考する。
○会則変更について協議。細かい表現を整えての完成版を次回総会までに準備する。
○事業内容について、全体的に規模縮小が望ましい。無理なく、自分たちも楽しんで研鑽できて、国際布教師や現場とのネットワーク維持ができる体制をキープしたい。例として、英語を使う勉強会などについて意見交換。ノミニケーションも大切との意見もあり。
○会報は年に１回程度に。案内状など必要な資金はイベントごとに出す。
○事務局スタッフへの日当交通費は、これまで通りに支給。
○会費は１万円を５千円に変更。
本報告以降の協議内容については、2014年２月13日開催のSOTO禅インターナショナル総会にて、改めて御報告いたします。

SZIホームページ運営中
会報バックナンバー、過去の総会・講演会、スタッフページなどもご覧いただけます。
URL>> http://soto-zen.net
SZIで検索!!
SZI 検索

… 塔婆供養で植林支援レポート …

塔婆供養で植林支援　2013年植林作業報告

以下のように、植林作業を実施したことを報告します。

1．植林作業実施概況

植林実施日	春　季	植林作業……5月12日～18日 （新規植林）約75ha
	秋　季	植林作業……9月21日～23日 （新規植林）約18ha （再植林）春季植林箇所での活着不良箇所の再植林
植林場所	モンゴル国セレンゲ県 アルタンボラグ村ゴロワンツァガーントルゴイ周辺	
樹　種	ヨーロッパアカマツ Pinus sylvestris（在来種）の２年生苗 及び シベリアカラマツ Larix sibirica（在来種）の２年生苗	
植林作業	アルタンツェツェグ（セレンゲ県ボゴントグループ）、トゥメンナサン（セレンゲ県森林局職員）、ツォグトサイハン（GNCMongolia スタッフ）	
	尾上　崇（GNC Japan スタッフ）ボゴント村の村民など 約15名他	

2013年秋季植林時の集合写真

2．植林作業本数概況

支援団体	本年植林予定			本年植林実績		
	前年繰越分	本年契約分	計	春季	秋季	計
SOTO禅インターナショナル（GNC共存の森）	15,000	25,000	40,000	30,000	10,000	40,000

植林時の状況（2013年5月12日撮影）

苗木の状況（2012年8月撮影）

2013年植林の概況報告

春季植林時の状況

2013年の植林地はアルタンボラグ村ゴロワンツァガーントルゴイ周辺に位置する。ゴロワンツァガーントルゴイ周辺は1996年の火災跡地であるがまだ手つかずのまま植林が行われていない場所の一つである。中にはまとまった樹林が残ってはいるものの、植生の草地化が進んできている。植林地では家畜の放牧は全く行われておらず、居住者もいない。土壌は砂質で褐色、植生はイネ科やキク科の下層植生でシラカバの初期遷移植生が所々にパッチ状に見られる。

速やかな植林による木本植生被覆が望まれる。左に植林時の状況写真を示す。

植林に用いた苗は、セレンゲ県ボゴント村の苗畑で育てられたアカマツ苗を使用し、青々として良好な苗であり、植え付け時も初期乾燥リスク対策として持ち運びにビニール袋を使う等活着率の向上を図った。

春季植林では予定93haの内75haの植林が完了した。

植林時の集合写真

秋季植林時の状況

2013年秋季は春季の残り18haについて植林を実施した。また、春季に活着が不良であった箇所についても合わせて再植林を行った。

苗木は苗畑から掘り取った直後に根元に泥を被せ乾燥害を防ぐ対策を行った。また、植林時の持ち運びも苗袋を使用し極力乾燥害による活着不良を少なくした。

春季の植林直後から40日程無降雨が続いたため、良好な活着が危ぶまれた。しかし、トラクターによる溝掘りの直後に速やかに植林を行ったことや、苗木の仮保存など乾燥リスクに対処したことが功を奏し苗木活着率は90％以上と高いことが確認された。

5～6月の山火事危険期には山火事の発生及び延焼による被害が危惧されたが、アルタンボラグ村の火災対策が適切に行われたため、件数もわずか数件に止めることができた。通行車両を止めるための関所を設置し、注意喚起を行ったり、丘の上に初期消火隊を配置させたため抑止効果が出たものと思われる。

また、植林地全体の変遷と苗木の成長を把握するため、定点観測調査と苗木成長量調査を行った。今後数年毎にモニタリング調査を実施し、植林地としての変化を追いかけることとする。

山火事危険期に使用する関所（2013年9月22日撮影）

苗の仮保存状況（2013年9月22日撮影）

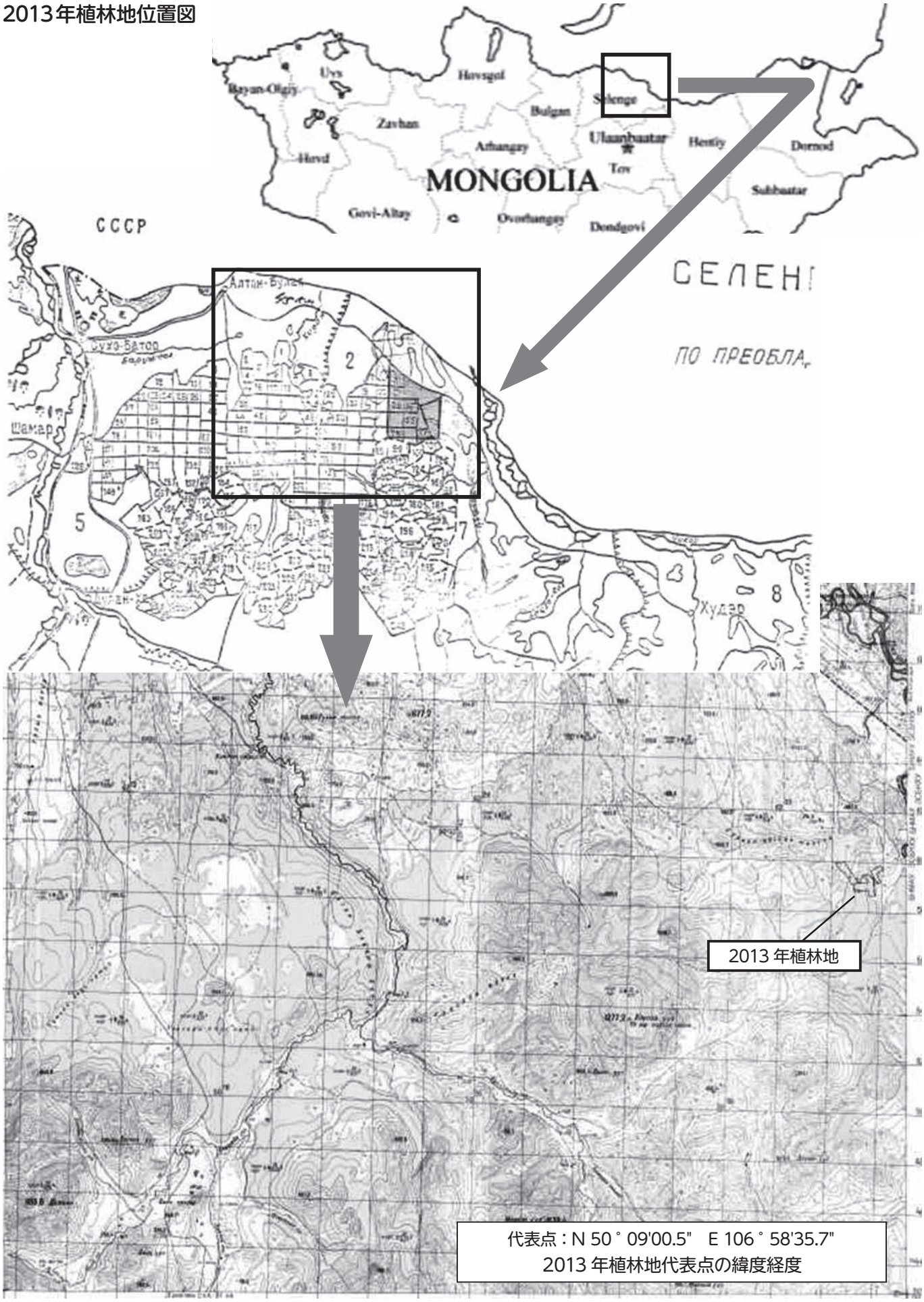
春季植林の活着状況（2013年9月22日撮影）

調査状況（2013年9月22日撮影）

2014年植林予定地

2014年も例年通り植林を実施する。場所はアルタンボラグ村に位置しトジーンナルス南西方向のイッヒゲルチョロート山の麓である。2014年と2015年の植林はこの場所で実施する予定である。

2013年植林地位置図



SZI express

会費納入者・賛助金納入者名簿
2013年8月1日～2013年11月30日

ありがとうございます。大切に使わせていただきます。

■ 会費納入者ご芳名（順不同・敬称略）

埼玉県　長青寺　引間維一
秋田県　東泉寺　佐藤一應
東京都　宝昌寺
長野県　常圓寺　角田泰隆

■ 賛助金納入者ご芳名（敬称略）

神奈川県　宗興寺　中野重哉

■ 塔婆供養で植林支援協賛者ご芳名（敬称略）

宮城県　龍泰寺

植林累計 1件　苗木 300本分

動 静 報 告
2013年8月21日～2013年12月20日

8月	会報53号発送作業	（貞昌院）
8月29日	日系寺院史校正作業	（天徳寺）
9月 2日	役員選考委員会	（セレスティンホテル）
9月 5日	大本山永平寺WS	（大本山永平寺）
9月18日	役員選考委員会・大本山總持寺WS	（大本山總持寺）
9月25日	日系寺院史編集会議	（檀信徒会館）
10月30日	日系寺院史編集会議、会報編集会議、役員選考委員会	（檀信徒会館）
11月7、8日	ハワイ国際布教110周年、両大本山ハワイ別院正法寺創立100周年記念行事	（ハワイ別院、シェラトン・ワイキキ）
12月	会報54号発送作業	（貞昌院）

なお、随時インターネットで役員会を開催いたしております。

2014年 SOTO禅インターナショナル 総会のお知らせ

日程／2014年2月13日（木）
14時より 定例総会

【次第】
（1）国際布教関係者物故者慰霊法要
（2）2013年度 事業報告 決算報告
（3）2014年度 事業計画 予算案審議
（4）役員選考委員会報告
（5）会則改正の件
（6）『曹洞宗海外日系寺院史』編纂委員会報告
（7）塔婆供養で植林支援寄託式、植林報告

会場／檀信徒会館　桜の間

なお、終了後懇親会を開催いたします。
（懇親会参加の方は会費5,000円）

※同封のハガキにて、出欠の連絡をお願いいたします。

CONTENTS

▶巻　頭　国際布教の今後に向け、一層の認識と協力姿勢の結集を……大本山總持寺監院　乙川　暎元　1
▶特　集　両大本山ワークショップ講演録
講演会抄録「スティーブ・ジョブズの禅受用と海外の禅研究」……駒澤大学仏教学部教授　石井　清純　2
両大本山ワークショップアンケート報告……7
▶海外レポート
①「曹洞宗ハワイ国際布教110周年 両大本山ハワイ別院正法寺創立100周年に参加して」……ＳＺＩ副会長　飯島　尚之　10
②「台湾・仏光山寺の祝典臨席レポート ～突然のお招きで二度訪問～」……埼玉県観音院住職　大場　満洋　11
▶役員選考委員会（10月30日）の協議報告……12
▶塔婆供養で植林支援　2013年植林作業報告……13
▶SZI express　会費納入者・賛助金納入者・塔婆供養で植林支援協賛者名簿／動静報告／総会のお知らせ……16